

そうじゃなくて結局人は人なんだよ

語り手 竹村 英二（寿管財〔守山駅立哨業務〕） 聞き手 今井 寛太

この仕事の意義

—なんでこの仕事をやってるんですか？

この仕事は地域の安心安全のために大事なんだよ。なぜかというところ、朝はみんな急ぐんだよ。時間ないからね。で、通路を広く取っちゃうと通行の妨げになっちゃうの。で、その通路の妨げになっちゃうと通行人の時間が遅れるの。たとえば自分（聞き手）やったら通学。遅れたら嫌でしょ？要はね、地域と密着していくことが立守の宿命。今でも、いろんなクレームが来るのよ。みんなわかんないだろうけど毎朝。

—はい、たまに先生から聞くことがあります。

うん、だと思っけど、そうじゃないんだよ。たとえば雨が降ってる日にみんな横2列で並ばなかったら、傘あつたら通れないんだよ。（通行人が横を傘さして通りたいわけ、そういう人もいるんだよ。いつも感じてるけどけどね。でもね、それをするのも一つなんだよ。いつも

—それがいつも仕事をやっている時に考えてることですか？

僕らはね、安心安全が大事、一番なのよ。それはどういうことかというところ、一般客に迷惑をかけないこと。みんなルールを守れるように、そういうルールを守ってね、仕事をするの。みんな親切だと思っただけど、先輩から教えてもらったことあるでしょ？それも一つのルールなのよ。ルールっていうのはさ、ある時には破られるのよ。難しいということではないのに。だから今でも、みんながね点字ブロックの左側に2列で並べてないでしょ？あれも一つ問題なのよ。なんでかわかる？

—なんとなくでしか。

点字ブロックってのはね目が見えない人の目印なの。そのルールを無視してる。みんな点字ブロックの上を歩いてる。それをね、直そうとしてるんだけど、なかなかあつて。だからまあ大変だとは思うよ。僕はね、立守はね、まだ地域に密着できてないと思うのよ。

地域の密着性

—というよりも、立守って守山の子何人いる？

—わからないですけど、クラスには3、4人ですかね？大阪京都の方も多いんで滋賀の人自体半分くらいだと思います。

—だから、なんでかわかる？

—わからないです。

僕らが言いたいのは、楽というよりもみんなの教育設備っていうのはみんな一緒なんだよ。俺の町内でも何人かいるよ、立守の子。でも、チヤリの子もいればバスに乗る子もいるけど、でもそれってさ当たり前のことだよ。地域として、当たり前のことを当たり前でできることは、立守にはまだまだ俺はねまだ（できて）ないよ。別に厳しいことを言うわけじゃないけどやっぱね、この仕事をして十年になるんだけど、すごいね不安を感じる。なんでかわかる？

—なんでかなあ…。

立守ってのはすごいところなの。偏差値もそうだし内装もそうだし。君も立派だけど、今後ね、伸びていくためにはね、やっぱり地域に密着する。意味わかる？

—僕去年、守山の夜市でお店を出すっていう活動をやったんですよ。それとはまた違う？

あー一つやね。それって成功した？（笑）
—わからないです。

何かというと、地域に親しまれたか。要はね、今自分らは毎朝ね中学高校と（通学して）くるじゃない。今はもう（時間が）別れたから楽になったけど、昔ひどかったよ列が。ほんとにひどかった。おいらがサラリーマンだったらほんま腹たつ。そんならいひどかった。でもそれをね、少しずつでも綺麗にするのが僕らの使命だし、今も言われてる「雨降った時、点字ブロックの左に並びなさい」って言っても並ばない。みんな忘れちゃってる。もうね、やっぱり仕事っていうのはこれなんかと思っちゃうと、もう七十のじいちゃんだけど、やっぱり辛いよね。だっかわいそうだもん。中学生はわかんないし高校生も分かってないし、それが当たり前だと思ってるもん。それ自体がおかしいのに。

—その今自分たちは当たり前が違ってるってことじゃないですか。分か
つてない人はどうすればいいんですか？

分かってないのが悪いんじゃないって教えないといけないの、僕らが。温故知新ってあるじゃん。やっぱね人っていうのは一緒なんだよ。やっぱ僕らはね、なんていうかな。君に笑われるかもしれないけど、俺は自分が正しいと思ってるから今もやってる。今の仕事をね。ただ、そうは言っても朝のクレームってあるじゃん。毎日毎日あるのよ。

—そんなにあるんですか？

君らは知らないと思うけどほんとに毎日くるのよ。ほんとに毎日。二列じゃなくて三列四列ってなったら急いでお客さんは真っ直ぐ歩けない。ぶつかるから。そういうのをね、わかるわからんっていうのはどうだろうなあ。俺から言わせりゃ、人は人だけ分かって欲しいよなあ。

—わからないといけないですよね。
そうだなあ。

学生時代から今まで

—竹村さんの学生時代ってどんな人だったんですか？

長崎県の壱岐高校ってところ。今年の選抜（甲子園）にいたとこ。立守ももう直ぐだろ？次はお前とこだ（笑）。やっぱね、そういうとこが出るとうすごい嬉しい。

—長崎からここにきたんですか？

広島経済大学をでて、まあいろんなとこいて今は滋賀にいる。

—仕事は転々としてたってことですか？
そうそう。

人はみんな一緒

—どんな仕事してきたんですか？

でもね、人生っていうのは一緒。自分がこれだっと思うのは一緒なんだよ。自分だっけねBKCに行くかどこ行くか知らないけど、今後あるでしょ自分の進路。どう考える？

—ん

教職であつたり社長になりたいとかそれだったらそれでもいい。でもそうじゃなくて普通のサラリーマンだったらどうする？

—どうするって？

わかんないでしょ？人生なんてそんなもん、わかんないの。やっぱ俺らからすると、りっちゃん（立守）は甘い。よそのもんからすると立命は甘い。だっけ坊ちゃんばっかだもん（笑）。

―それこそ最近校則緩くなりましたし。

でね、いろいろあるやん。いろんな思いあるじゃん。そんなの当たり前なんよ。だって昔からそうだもん。

―めっちゃ現実言われてる感じします（笑）。

「人のふり見て我がふり直せ」

―今よく聞く話なんですけど、現代の人は直ぐ仕事やめるとか聞くじゃないですか。昔ってそんな厳しかったんですか？

就職っていうので、就職氷河期ってわかる？俺の世代はね、就職なんてなかったのよ。要は、企業が募集しなかった。できなかった。おいらは就職氷河期に産まれたけど、たまたま（就職）できたとしても、要は年功序列っていうのが昔あったのよ。社会の風で。

年功序列っていうのは要はその企業に染められるの。でもね、いつ首切られるかわからないの。怖いじゃん。まあ俺の場合はね、今のイオンね、そこに行ってたの。今思うとね、ほんとによかったのかなあって。

君らはね、もう自分で会社起こせるでしょ？だから一般企業に勤めるのはどうだろうねと思うけどどうだろうねえ。

―その昔の仕事の出来事でこれはめっちゃ覚えてるっていう出来事というかエピソードみたいななんかありませんか？

先輩に言われたことひとつ覚えてる。「人のふり見て我がふり直せ」

って言われたの。おいらの時代はね、会社の氷河期じゃないんだけど、会社には入れるんだけど、何すればいいのかわかんない。ちゃんと教えてもらえない。だから人のふり見て我がふり直せってよく言われた。そりゃ今の時代に言えることじゃないけど、昔は昔であつたんだなって。―今ってネットで調べたら基本的になんでも出てくるじゃないですか。

そういうわからんことあつたら昔ってどうしてたんですか？

例えばA Iに自分も調べたいこと聞くでしょ？どう思う？

―楽やなって、簡単やなって

でも、ええんかって思わない？

―まあ思うっちゃ思います。自分の能力じゃないって言われたら確かにその通りやなって。

で、A I信じる？

―んーまあデマとか間違ひも聞きますし、わからないです。

でもさ、フェイクだつて一緒なんだよ。なんでも一緒。おたく今二十周年でやってるでしょ？二十周年ってほんとすごいよ立守は。なんでこまでやってこれたかっていうと、地域の密着性があつたからこそ、それがなかったらなんもできない。この前までの学校からね、ずーっと積み重なってきたからなんだよ。だから立守が今りっぱなんだよ。関西の私立でね、俺は誇ってる。何もできないけどね（笑）。

人って結局一緒って？

―話聞いてこれから考えなあかんこと多くて大変やなって思ってます（笑）。

だってさ、人って結局一緒なんだよ。なんぼ立守出てたつて京産出てたつて同志社出てたつて、結局は一緒なのよ。俺はね、そういうのを別に否定しないけど、興奮ってあるやろ？興奮ってね大事なんだよ。それをわからんやつは俺は信じてない。

―そのなんていうか、一緒っていうのはどういうこととか、みんな違ってみんないいとかそういうのとはまた違う意味なんですか？

そうそうそう。

—どう解釈すればいいんですか？

だから、結局人は人なんだよ。そう思っていないと生きてられない。自分らは立守の生徒でねBKC行くのか衣笠に行くのか知らないけど、自分の将来どう思ってるの。

—ん。

どんな職つきたいとかどんな風になりたいとかいろいろあるじゃない。

—ん。

あかんよ、そんなもう夢のないやつはあかんよ。

—やつは夢あるのって大事ですか？

ぶっちゃけね、僕はね、立守の人は絶対楽しいと思うよ。先生の教育はほんとすごいから。いろんなことがあったけど、でもそれはそうとして今はすごいよ。ほんと俺は思う。

—具体的にどうすごいんですか？

例えば運動部の先生でもね、野球、今箭内さん？

—わかんないです

まあ野球部の顧問がいるんだよ。今年こそ甲子園でつてやつてんのに綾羽に負けるんだよ。三年間もだよ。今年は絶対行くと思ってたよ。準決勝まで全部見に行った。皇子山に。そうそうすごい人で。えーっと今年サッカーが行ったんかな？全国に。

—はいそうですね。

でも、俺は野球が行って欲しかった（笑）。俺はあの箭内さんの顔が見たい。笑ってる顔が。よくBBCで箭内さんの顔が映るんだよ。顧問の先生だけだ。まあすてきな先生だよな。今の校長もだし。やつは立守は人を持つてる。人を持つてるというのは人を育てるの。それしかな

い。

—竹村さんは学生時代野球部だったんですか？

俺はサッカー

—サッカーなんですか（笑）。ならなんでそんなに野球好きなんですか？

野球つてのは地域のシンボルなのよ。例えばおいらみたいな九州の壱岐の島つて知ってる？

—知らないです。

知らないでしょ。そんなところから選ばれてくんの。それつてすごいことなんだよ。全国だよ。君がなにやってるかわかんないけど、スポーツやってる人つていうのはすごいものなんでも。まあ僕はそうだなあ、期待することだけど、今じゃネットでなんでも見れるじゃん。そういうのもいいけど、やつはスポーツで活躍して欲しいなあ。

立守生のこれから

—立守の生徒たちはこれからどうなるべきとかどうしていくべきなんですか？

ん？

—さっき言つてたみたいに、当たり前が違ったりやれるのにやらなかったりつて言つてたじゃないですか。

僕から言わせると、毎朝の安心安全が大事なのよ。一般客に迷惑をかせない。どういうことかわかる？

—周りに配慮しなければならなくてことですか？

例えば、毎朝点字ブロックの左側に並んでるだろ？でも並んでる中で俺も経験あるんだけど、（一般客で）時間ない人はどけどけつてしてくる

んだよ。そういうのもやっぱあるんだよ。投げ倒すつてもできないし、俺ならまあどうだろうね。俺はもともとみんなに注意すべきだと思うね。

―それって俺らが変わらないといけないことじゃないんですか？

変わらないといけないけど、変わらせるためにはどうしたらいいか、やっぱ変わって欲しいんだよ。だから地域の人みんなに迷惑がかからないようにするためにはどうすればいいかってことだけ考えてる。他はいらん。いらんことはいらん。

―難しいですね（笑）。

―今はそういう風に俺に言ってくれてますけど、竹村さんが学生時代の頃はそういう周りに配慮とか考えてましたか？

あはは。例えば僕は（聞き手の）お父さんよりも上なんだよ。今年で七十三だけど、そういう人っていうのは人の生活の中で生き抜くのもあるけど、そんな変わんないなあ。君だって今後BKCへ行こうと衣笠に行こうとワシは年取ってくだけだし、思うんだけど立守好きだから、だから仕事やってるし。時間給二時間だけだよ？タバコでなくなるよ。猫の餌、もういいやって（笑）。

―ダメでしょ（笑）

結局人は人なんだよ

―人はみんな一緒っていうのは結局どういことかいまいちわかってないんですけど。

あ、そう。そのまんまよ、自分はこうやって思っても人は人っていうこと。

―人は結局人やから一緒っていうことですか？
そう。

―でもそんなかでみんな個性とかで違うってことですね。

でもね、自分が教育学部に行きたいと思ったとするじゃん。それが認められなかったらどうするの。あかんかったらと思うじゃん。そうじゃなくて結局人は人なんだよ。俺はそう思う。

でことで。

―ありがとうございます。

【感想】

竹村さんはとても理解が難しい話をされた。立守生は甘くて当たり前が違っていることや、人は結局人であるということなど、普通にわかりそうでわからない話をしてとても面白かった。話の中で今後をどう考える？と聞かれた時、何も言えなくてそれじゃダメと言われて、夢や今後の目標を持つことはやっぱり大事なんだと改めて知ることができた。この聞き書きの機会を無駄にせず今後につなげたいと思った。

右：聞き手 今井 寛太
左：語り手 竹村 英二さん

